

特集 情報化の進展と文教施策

巻頭言 ● 6 高度情報通信社会と人間・猪瀬 博

座談会 ● 8 教育の情報化——現況と課題

● (出席者) 石井威盛 / 刈宿俊文 / 野中ともみ / 深山 照 ● (司会) 小口浩一

事例紹介 ● 20 電子図書館システムについて・学術情報センター

事例紹介 ● 24 主体的に自らの生活を切り開く

生徒一人一人の個性を伸ばすためのコンピュータの

有効な活用法・岐阜県板取村立板取中学校

提言 ● 28 文教分野における情報活用の将来像・坂元 昇

● 30 頼られる図書館をめざして

神奈川県立図書館の場合・吉田 敦

● 32 スポーツ分野における情報活用の将来像・大鐘 順

エッセイ ● 34 学校のパソコン教育で地域貢献を・山根 眞

解説 ● 36 文政行政における情報化への取組について

マルチメディア時代に向けての対応

● 大臣官房政策課マルチメディア政策企画室

資料 ● 46 マルチメディアの発展に対応した

文教施策の推進について(審議のまとめ)(要約)

カラー

1 いま、き価値ある日の学校訪問記

● 川副町立川副中学校(佐賀県)

4 天然記念物歳時記

● 杉沢の沢スギ(富山県)

表2 名作シリーズ・愛染明王像

表3 文化財紹介・大燈国師墨蹟

50 人・この道・山口久美子

51 教育・文化と地域づくり ● 山梨県牧丘町

54 中教審ニュース

60 焦点——文教施策

67 私の本棚から・藤田良雄

68 都道府県発表——教育・学術・文化ニュース

● 青森県・岐阜県・鳥取県・愛媛県

70 ニュースはにっぽん

● リニアエル・エミリオ・アルカルデ

72 '96アトランター我が国競スポーツの最前線

● ウェイトリフティング

74 科学は、いま理工系へいざない

● 鳥取大学乾燥地研究センター

77 鑑賞席・共催展清水九兵衛展

環境との親和(アソシエイト)

78 ぼくたち、わたしたちのウィークエンド

● 北九州市教育委員会

80 海外教育ニュース

82 文学のふるさと・野菊の墓

84 編集後記

巻頭言

高度情報通信社会と人間

学術情報センター所長

猪瀬 博



いのせ・ひろし 東京都出身。専門分野、情報通信(工学博士)。東京大学教授、同工学部長を経て昭和62年から現職。日本学士院賞、文化勲章受章。著書「情報技術と文明」、「センターオブエクセレンスの構築」ほか。

情報通信技術の進展によって、世界は画期的な変革をとげつつあります。この新しい世界の基盤となるのは、すべての人々が相互に交信し、多様な情報資源にアクセスできるような、開かれた情報通信ネットワークです。それは国際的に通用する相互運用性をもった超高速のネットワークであり、データベースやスーパーコンピュータやソフトウェアなどを自由に利用できるものでなければなりません。

このような巨大な情報通信基盤の構築には地球的規模での多大な努力と広範囲な合意が必要です。また国レベルでも、よりよい二十一世紀を実現するために必須の社会資本と位置付け、国民をあげてその整備拡充に取り組む必要があります。日本でも民間による光ファイバー網の全国展開が始まっていますが、そ

的にはこの強力な道具を、人類の繁栄と幸福のために役立てる努力が必要といえましょう。

図書館、博物館、データベース、出版事業、放送事業などの情報資源は、これまで著しく偏在していました。一般に途上国よりも先進国に、へき地よりも大都会に、情報資源は集中していました。新しい情報通信基盤はこのような格差を大幅に是正することができます。ユーザはどこにいても、多様な情報資源をいながらにして利用できるようになるからです。今後は津々浦々にいたるまで高速通信網を拡充整備するとともに、情報資源の開発に力を尽さなければなりません。特に図書や雑誌の全文をデータベース化し、ユーザが所望の内容を自由に検索し、入手できる、いわゆる電子図書館の実現はもとより、博物館や美術館の収蔵品についても、その画像をどこからでも検索入手できるシステムの開発が必要です。

情報通信基盤は、無数の情報源からの情報発信を可能にしています。だれでも電子メールや電子掲示板を利用できるからです。ユーザの情報依存性は急速に高まっていますが、入手する情報の質や信憑性^{びようせい}を知るのは困難になっています。したがって情報発信に当たっては、その内容の正当性につき、最大限の注意をはらうよう努めなければなりません。

過去を顧みると、紙や印刷の発明、郵便制度の導入など種々の情報通信基盤が社会の発展と文化の充実に寄与してきたことが分かります。他の文化を知り、それを選択的に受容すれば自らの文化を充実することができますが、無批判に吸収すれば自

の実現を促進するためには、まず政府諸機関が主要ユーザとなり、学術、教育、行政などの抜本的な情報化をめざして、格段の公的先行投資を行うべきでしょう。また種々の情報資源の開発、殊に二十一世紀の図書館サービスの形態であります。マルチメディア機能をもつ全文データベースの早期開発とサービスの実現に努める必要があるでしょう。

さらに相互運用性維持のための標準化の推進、システムの信頼性やセキュリティの確保、知的所有権やプライバシーの保護、情報公開の促進、規制の見直しと既得権益の調整などについては、国際的な合意のもとで、かつユーザの便益を最大のものとすよう、全力をあげて取り組まなければなりません。さて、情報通信基盤のもつ大きな潜在能力を考えると、究極

らの文化的個性を喪失します。情報通信基盤の力を最大限に活用して、より広範囲な文化に接するとともに、自らの内在的な文化能力を高めて選択眼を養わなければなりません。その面でも、教育の果たす役割は極めて大きいものがあります。

情報通信基盤自体の発展にとっても、またそれを利用する社会全般の発展にとっても、活用できる人的資源の質と量が、成否を分ける大きな要因です。コンピュータ・ゲームやパソコンの普及によって、送られてくる画面をただ見ているだけという受身の形から、コンピュータと積極的にやり取りするという新しい形へ、我々の生活は変わりつつあります。このような傾向は情報通信基盤の進展に伴い、一層顕著なものとなり、楽しみながら有益な行動をとることにによって、構造化された思考の世界に入っていくという、新しい勉学の形態が作り出されているのです。それは高等教育のみならず、初等中等教育はもとより、生涯学習など極めて広範囲な人材育成にとつて、新しい機会を提供しているといえるでしょう。平成七年一月に文部省によってとりまとめられた報告書「マルチメディアの発展に対応した文教施策の推進について」は、このような状況を踏まえ、西暦二〇〇〇年を目標に、すべての教育分野で全国あまねく、抜本的な情報化を推進すべく、具体的な目標を提示しています。

新しい情報通信基盤も、学術研究や高等教育のみならず、あらゆる勉学の機会を支えるものとなるでしょうし、私たちの生きざま自体をも変革していくと思われれます。

特集 ● 総合学科 高等学校教育の 新たなる展開

●巻頭言
総合学科の課題と今後の展望——豊田章一郎

●座談会

総合学科への期待
——出席者 天野郁夫／北澤誠士／櫻井修
坂内和子／(司会)木曾功

●論文
総合学科に対する期待——山極隆

●エッセイ
——笛吹雅子

●事例紹介
——岩手県岩谷堂高校ほか

人への道
——後藤正二

教育・文化と地域づくり
——秋田県能代市

都道府県別
——教育・学術・文化ニュース
岩手県・山梨県・和歌山県・宮崎県

編集後記

▽今月号の特集テーマは、「情報化の進展と文教施策」です。本特集では、マルチメディアが新しいコミュニケーションの在り方をもたらすなど様々な可能性を持つものとして、国際的にも重要なテーマとして取り組まれている中で、マルチメディアの特色とその発展、教育、学術、文化、スポーツの各分野と情報とのかかわり、文教分野でのマルチメディアの活用の基本的な考え方、コンピュータ利用についての学校の取組などについて紹介しています。

近いうちには、小学校では二人に一台、中学校では一人に一台のコンピュータを使った教育ができる見通しであり、我々の職場にも各デスクにパソコンが置かれ、会議の案内も電子メールで届くようになるという事です。ワープロがやつとの私にとって、パソコンと友達になれるか心配なところで、▽第一五期中央教育審議会が先月発足しました。文部時報では、今月号から「中教審ニュース」のコーナーを設け、中教審に関する情報をお伝えすることとしました。▽学校週五日制もこの四月から月二回の実施となりました。新緑の美しいこの季節、子供たちにはせっかくの休日をのびのびと過ごさせてあげたいものです。

(T・K)

投稿歓迎

『読者からのたより』欄への投稿を歓迎します。本誌を読んだの御感想、御意見等をどしどしお寄せください。
●投稿規定
①一件につき四〇〇字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈
※文章を一部手直しさせていただくことがあります。
●送り先
〒100 東京都千代田区霞が関三―二―二
文部省大臣官房政策課 「文部時報」編集部

平成7年5月10日印刷
平成7年5月10日発行

●著作権所有——文部省◎
●発行所——株式会社 ぎょうせい
本社 〒104 東京都中央区銀座7丁目4番12号
本部 〒167 東京都杉並区荻窪4-30-16
電話 03-5349-6666(営業部) 振替口座 00190-0-161
●印刷所——株式会社行政学会印刷所

定価550円(本体534円)(〒84円)
年間購読料6,600円

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いします。

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。